

布水中道徳通信



2022.10.14
布水中学校 道徳担当
第3号

今回は2年生の道徳の授業の様子や生徒たちの学びについて紹介します。



「愛～支え合いの中で～」 B-6 思いやり

主人公の私は、腎不全という重い病気にかかっている母に、自らの腎臓を提供してくれた健おじさんの優しさや勇気に触れ本当の人間愛に気づく。「自分だったらどうする？」という問いから子どもたちも本当の人間愛、思いやりについて考えを深めました。

【生徒のまとめより】

自分のためではなく相手のために第一に行動できるような人間になりたいと思った。

「お互い助け合う」ということはほんの小さなことでもお互いを想う気持ちがないとできないことだと思った。お互いを信じあう気持ちが大切。

私は移植するかしないかを考えたとき、自分のことしか考えていなくて、相手のつらい気持ちを無視していると気づきました。相手を思いやることは難しいことだと感じた。

みんな助け合いができればみんなが平和に生きていけるが、それができていない現状があるので、自分は小さなボランティアなどから始めていきたい。



「遠足で学んだこと」 B-9 相互理解、寛容

この資料は、遠足での出来事をもとにしたものです。時間や決まりを大切にしたいと考えていた主人公の藤野君が、植物と触れ合うゆとりがあってもいいと考える吉川君との対立を通して、お互いを理解し合い、他の人の考えから学ぶということの大切さに気づきます。班員の坂巻君の発した「みんな違ってみんないい」という言葉から、仲間の考えを知り、異なる個性を理解することの大切さについて考えを深めました。



【生徒のまとめより】

友達と意見が違って自分の意見をしっかりと言う。そして友達がいった意見もしっかり聞く。みんないいところもあると思うから、それぞれの良さをしっかりと生かしたい。

人は意見や考え方が違って当たり前で、でも「みんなちがってみんないい！」と一人ひとりの個性を尊重するとよいということがわかりました。

みんなが納得いくような最善を探しても、必ず誰かしら譲らなければならないときはあると思う。それが自分だったときに、相手の行動や言動の裏にある思いや考えをくみ取ってあげられるようになればいいなと思った。

私は、班で一人一人意見が違って、一人ずつの意見を大切にしようと思います。みんなが納得できる意見を話し合うこともすごく大切だと思った。